



北海道立野付牛中学校
北海道立北見中学校
北海道立北見高等学校
北海道立北見北斗高等学校

東京 とどの実

学生時代の 一番の思い出

三期卒 吉見一郎



野付牛中学三期卒の私はおそらく在京同窓生の中では最年長となつてしまつたであろう。野付牛町に初めて中学が出来るというので町はザワついたが尋常科や高等科在学の小学生の現役のみならず卒業して家事の農業を手伝っていた所謂浪人組が沢山入つて来たから一期生二期生には親爺の様な人がゴロゴロしていた。すごいのは生徒だけではない先生方でも高等師範学校卒の正式の先生は佐藤猪之助校長と阿部忠二郎教頭のお二人だけであつたと思う。あとはどういふ経歴でどう流れて来

られたのか判らぬ方もいた。事実朝から酒臭い息をして教壇に立つ豪傑の方もいた。何分北のさい果ての田舎町の新設校に赴任するといふのだから余程変り者が多かつたのは当然だろう。コール天の乗馬ズボンに地下足袋の上履きという制服も妙なもので、これは佐藤校長の発案といふことだが生徒には極めて評判が悪かつた。カッコ悪いの一番だから。

佐藤校長の教育方針は知育に偏らず全人教育であつたから開校直後のポプラ並木の植付け、グラウンド整地のモッコ担ぎ、時には冬期暖房用の薪割りなどもさせられた。その一例が今に続いている強行遠足だ。

異色の生徒、先生方をまとめて行かれたのは何と言つてもリンカーンとあだ名された佐藤校長の人格人徳である。熱心なクリスチャンであつた先生は粗末な木綿の和服によつた小倉の袴姿で登校された。何回もの雨で順延の結果中止になつた遠足の朝がつかりする生徒達を前に「天を恨まず」と訓話された壇上のお姿が今も目に浮ぶ。

社会に出て数年後北見に出張する機会があり先生のお宅を訪ねた。粗末な借家の二階に住んで居られた。生憎御留守で家主のおばさんにたずねると毎日お一人で畑に野菜作りに出掛けて居られますとの事であつた。先生の二男の啓君は私と同期であつたが卒業と同時にブラジルに渡り苦勞のすえ農場をもつた。一度だけ数年前帰国したが再び戻り永住のつもりだ。

校長の晩年は奥様にも先立たれ孤独の生活であつたようだ。私にとつて「学生時代の一番の思い出」、夫れは矢張り佐藤校長の面影である。今もなお正門脇の胸像の慈顔が吾々を見守つていて下さることであろうか。

■初代佐藤校長胸像

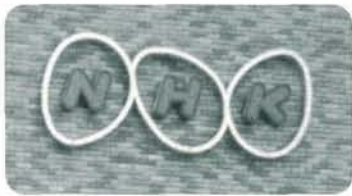
初代校長佐藤猪之助先生の胸像は、校門を入つたところに建立されております。

戦争中に銅製のために供出されましたが、戦後、同窓生の熱意で、再度製作されました。

昭和22年の冬、当時東相内に疎開（この言葉も私語になつた？）していた日展無審査の彫刻家中野五一先生が毎日新館の工作室（工作室の主は山口カラス先生）に通い、存命の佐藤猪之助がモーニングをかかえて、実物モデルとなつて、再建されたのであります。



クラブ活動の思い出



華道部
28期
川端のり子



昭和25年3月迄男子校であったところへ、一年生として4月入学。早速クラブ活動に華道部を作っていました。生徒玄関につたない華道部募集のポスターを貼り、30名程でスタートしました。女学校からの転校の一年生、三年生の先輩と仲良く、書道の赤坂先生の奥様に伝統ある池坊の手ほどきを受けましたのが、身にしみとうとう今だに「いけ花」をたしなんでいる次第でございます。28年卒業の際、茶道部設立の運動をし学校を去りました。只今は華道部、茶道部健在でしょうか？

野球で過ごした毎日。1年、朝・昼のグラウンド整備、早弁。夜9時までの練習、遠征、冬休みの郵便局のアルバイト、春の大会、夏の大会、新人戦、練習のボイコット...最後の試合...商業科のなくなった年の私達は地区予選の優勝旗を全て返した...でも思い出は一杯です。

ラグビー部
27期
宮井国夫

勉強がきびしい学校であったが、強行遠足はじめ運動会、雪合戦、鬼狩りなどの行事の思い出多い。しかしやっぱり、全国高校ラグビー準優勝かな！

野球部
57期 竹縄 和章

バレーボール部
39期 村松蓉子

凍てつくような体育館でバレーボール部の練習に明け暮れた日々が一番の思い出として蘇ってきます。ひび割れた指には血がにじみ回転レシーブでできたあざで体中むらさき色。それでも夢中になって白球を追いかけた37年前が懐かしく今でも私の胸を熱くし、そして勇気を持たせてくれます。

4年生で庭球部選手になり東北毎道予選大会(当時中学は網走、帯広、釧路、根室高、十勝農)で優勝し全道大会で小樽市花園庭球場に出場したが旭川師範と対戦し惨敗(師範学校は高等小学校卒で入校のため体格がすばらしかった)

北斗庭球部は地区大会では常勝。道内大会では上位にランクされていた。昭和31年の最終年では道内大会は惜敗した。現在もテニスを続けているが私のストレス解消法になっている。第一期の大先輩斎太郎さんより「テニスは60歳でも出来るスポーツだ」との一言が還ったからです。今思い出し感謝する次第

庭球部
9期 寿原茂夫

ラグビー部員としての3年間、毎日の練習、夏合宿に辛く苦しい思い出が。そして地区大会、全道大会、全国大会での一つ一つの試合に悔しい又楽しい思い出が数多くあり、私にとって誠に幸せなことだと染み染み感じている昨今。とりわけ、ラグビーを通じて培った「精魂尽して颯爽たり省みるときの微笑」という精神は私の人生形成の基盤となったことに感謝したい。

庭球部
32期 品川政輝

ラグビー部
34期 馬淵秀一

珠算部でソロバンに明け暮れた3年間でした。就職後もつづけづらい時ソロバンに打ち込み無我になる事が人生の一つの支えでした。又秒を争う競技会はどんな困難にも必ずのり切れるとの自信につながりました。22才で夫婦二人っきりで埼玉で暮らしはじめて読上算の声を聞いて又、ソロバンと関わりました。長女の小3から3女の小6まで家庭で塾も開き、ソロバンとのかかわりが人生を切り拓けたし、試練と大会に明け暮れた北斗高校の三年間は青春の輝く一ページとなっています。

珠算部
38期
管野 博子



恩師の思い出



ポプラと悪戯
32期 萩原和夫

男女共学
27期 中原和子

グラウンド脇のポプラの大木は沢山の毛虫がいました。旧友の米田君と子の毛虫を一杯集めてクラスに持ち帰り昼食中のクラスメートに投げ付け大いに皆を慌てさせた思い出が今も懐かしい。アダ名は寒河江先生にエビスとつけられました。今でも気に入っています。

昭和25年に男女共学になり北斗に移りました。女子高生活とは全く違う生活に驚きの連続。一番驚いたのはお弁当のおかずを男子に取られた事。彼らは歩きながらお弁当を食べ友人達のお弁当からめぼしいおかずを取って食べていた。当時の北斗はラグビーの強かった時代。体育の時間は雪の中女子でもラグビーボールを持たせて走らせていた。手抜き授業と皆怒っていた。ブンコ、ゲジムシ、ベコサン等々名物教師も居られた。校庭の青々とした芝生も懐かしい。カバンにラブレターが入っていたこともあった。もう50年近く前の青春の一ページ。楽しい思い出アリガトウ！

幼い頃から好きだった音楽を田川先生にほめられ厳寒の早朝も毎日音楽室のピアノで練習。今もピアノ教えてます。胸の痛くなるような初恋。大好きな先生に傘を借りた事。廊下で姿を見てドキドキしたこと。強行遠足で励まされ三年間でベストの順位。甘酸っぱい思い出。

ピアノ・初恋
38期 小林英美子

36年11月1日に出発した修学旅行。秋真盛りのいい時期で柿の実のなる風景の美しかったこと。大阪の旅館で夜食べ盛りの私達は何か食べたいがもう外出出来ない時間で規則は守らなければならないので担任の養口先生に買い物をお願いした事。卒業後に一度先生から話題になり皆(5~6人)恥ずかしいやらおかしいやら。でもいい時代でした。

修学旅行
38期 石道昭子



初の女子教師
25期 堀江一男

層雲峡
25期 笹本陽二

男子校に初めて音楽専門に新開令子先生が赴任されて校内が大騒ぎになりました。●音楽部に所属しており、合唱やヴァイオリンを弾いてました。●強行遠足は高1-37番、高2-30番、高3-38番と三年間30番台をキープしました。●現在でもこれらが役に立ち、音楽教室でヴァイオリンを教えています。●一ヶ月に10日位5~6kmを遠足で歩いており、毎日明るく元気で暮らしています。

糠塚先生引率のもと、5人程で北見から層雲峡迄横断した事がある。現在は立派な国道が出来ており簡単に車で行くことが出来る。留辺蘂からイトムカ近く迄は山林軌道のトロッコに乗った。イトムカ水銀鉱内見学-世界有数の水銀鉱山であること、原子爆弾製造に使用されているようだ、との話。この先が本格的な山越え、沢に沿った山道はだんだん狭くなり心細く感じた、ただ、付いて行くだけ。キャンプは大函がよく見える所、付近は鬱蒼として茂みだけ、河原近くにテントを張り、泊まる事になる。一晩中、蚊に悩まされ、良く眠れなかった。次ぎの日天候が悪化し、大雪山に登る事を諦め国鉄で北見に戻る。今でも良い思い出。



物故者

第一回 二年卒	岡村芳男	没
第十回 十一年卒	倉本賢三	平成九年十一月没
第十三回 十四年卒	喜多村晴男	平成十年九月没
第十三回 十四年卒	池田寛	平成十二年十一月没
第十三回 十四年卒	友田安雄	平成十二年三月没
第十四回 十五年卒	金谷正祐	没
第十五回 十六年卒	竹倉茂	平成十年十二月没
第十六回 十七年卒	田中初男	平成十二年十二月没
第十六回 十七年卒	中井健五	平成十一年一月没
第十六回 十七年卒	梅谷修	平成九年七月没
第二十回 二十年卒	岩崎健剛	平成十年二月没
第二十七回 二十七年卒	山田隆	平成十年没
第二十九回 二十九年卒	沼田泰和	平成十年十二月没
第三十一回 三十一年卒	庭田橋	平成十二年二月没
第三十二回 三十二年卒	滝沢修一	平成十二年五月没

編集部 後記

2000年7月1日50周年記念大会での熱気と興奮を思い出しながら第2号を作っています。
90(80)代から20(30)代の同窓生が東京の地で300名以上集う事があるのでしょいか？

第2号はその模様を写真で、懐かしい部活と恩師の思い出を最近の北見の名所・名店と共に、メインは初代校長の思いを吉見一郎大先輩に熱く語って戴きました。
本年度の東京とどの実会の総会に多数ご来場を心からお待ちしております。

また、会報第3号の原稿もお待ちしております。

(半ちゃん)



受付会場



24期生 宮川 泰先生のミニライブ



宮川先生のピアノ演奏による全員の校歌斉唱



東京とどの実会50周年の集い

2000年7月1日於/グランドアーク半蔵門

先に開催いたしました50周年の集いは300名の出席のもと盛大に祝いました。33度の炎天下のミニ強行遠足、宮川先生のミニライブ、来賓の本部会長、各支部長、恩師の先生を囲んでの懇親会と、同期生先輩、後輩と交流し楽しい一夜でした。これからもこの会が、母校を同じくする者の心の絆と語らいの場として更に発展することを祈るものであります。



桂 教夫会長のご挨拶



井上正道現校長先生の祝辞

祝宴・懇親会



祝宴・懇親会

万歳三唱！

